

在宅介護ベッド発売

高齢者の誤嚥リスク低減

医療・介護ベッドメーカーのシーホネンス(株)大阪、増本龍樹社長はこのほど、新型在宅介護向けベッドを開発、9月から「Emi(エミ)」の商品名で発売する。この機種は、利用者と介助者、福祉用具事業者に「笑顔」になってもらうため、快適・安全・簡単をコンセプトに、あらゆる機能を搭載したハイエンドモデルとしている。

主な特長は①高齢者の誤嚥性肺炎に、誤嚥リスクを低減する「ADLポジション」、②コロナ時代の在宅介護に、ベッド上での快適を追求した「QOLポジション」、③床ずれリスクの軽減に「スイングバック機能」、④誰でも使いやすい、液晶

手元スイッチ、⑤在宅介護の環境に合わせてベッドを変更できる「スーパームジュール機能」などを上げている。これらの特長の具体的な内容は次のようである。

▽誤嚥を低減する「ADLポジション」
 0〜30度で調整できるADLポジションは、ベッド上で飲み込みに適したあごを引いた姿勢が取れるため、誤嚥リスクの低減につながる。ベッド上での飲食や投薬時の誤嚥リスク低減に、また口腔ケア時のポジションにも活用できる。

▽ベッド上での快適を追求した「QOLポジション」
 ①頭頸部を0〜50度で調整できるQOLポジションは、視線が前を向くため、家族とのコミュニケーションが取りやすく、ベッド上で快適に過ごすことができる。

▽床ずれリスクの軽減に「スイングバック機能」
 背上げ時に背ボトムを支点が後ろ8cmスイングするこ

とで、ズレない背上げを実現。お腹の圧迫感や前ズレが軽減されて、床ずれリスク軽減に繋がる。

▽誰でも使いやすい液晶手元スイッチ①操作しやすいバリアフリー設計(液晶表示で頭・背・足・高さ全ての数値を表現。ベッド操作時の音声案内で、誤操作の防止に。カラーリングは視認性が高い「黒ベースに白文字」、②在宅介護ケアの質向上に、操作履歴表示(操作ログ画面で、各動作のボタンを押した回数・動作の合計時間を確認できる。例えばモニタリング時に操作履歴のフィードバックを利用者に行うことで、ケアの質向上に繋がる)。

▽在宅介護の環境に合わせてベッドを変更できる「スーパームジュール機能」
 ①低床/超低床タイプを簡単切り替え(組み立て時に脚座の差し込み方向を縦・横と変えるだけで、ベッド床高を変更することができる)、②ベッド長さを工具無で簡単切り替え(ベッドの長さはオプションや工具無しで変更でき、利用者の身長や部屋のスペースに合わせて調整できる)。ベッド長さはシートが181cm、レギュラーが191cm、ロングが205cm。

Emi 笑



誤嚥リスク低減の在宅介護ベッド